

【独自解説】新型コロナは「5類になっても“ただの風邪”ではない」脱水症状で命のリスクも…共通点多い『熱中症』との見分け方とは？死者数はインフルの20倍超、知っておきたいコロナの怖さと対策法

8/11 読売テレビ



新型コロナ感染者数が増加傾向にある中、懸念されるのが医療逼迫です。流行中のオミクロン株の変異株『KP.3』は、感染力が高いため要注意。ただ、暑い時期のマスク着用には『熱中症』のリスクも。初期症状が似ているコロナと熱中症の見分け方は？夏に適した感染予防は？『読売テレビ』古瀬朱理記者・横須賀ゆきの解説委員のダブル解説です。

■ 「5類になっても“ただの風邪”ではない」後遺症・死者数から見るコロナの怖さ
『読売テレビ』古瀬朱理記者

まず、皆さんに知っておいていただきたいのが、『新型コロナは5類になっても“ただの風邪”ではない』ということです。

私が取材させていただいた大阪大学・忽那賢志教授は、「年に何度も流行し重症者を多く出す感染症は、コロナ以外にない」と指摘しています。「ワクチンの未接種や、前回から時間が経っている人が感染した場合、重症化することもある」ということです。



また、新型コロナの後遺症には、『味覚・嗅覚障害』『集中力の低下』『脱毛』などが挙げられます。オミクロン株は「コロナ流行初期と比べて重症化しにくい」といわれていましたが、オミクロン株流行時に感染して後遺症が残っている人の8.5%が、「半年後も生活に深刻な支障が出た」と報告しています。



さらに、厚労省によると、インフルエンザの死者数が778人(2023年1月～11月)に対し、**新型コロナの死者数は1万6043人(5類以降の2023年5月～11月)で、20倍を超えると報告されています。**

■新たな変異株『KP.3』は「感染力が高い」 2024年も患者数は増加傾向

オミクロン株の新たな変異株『KP.3』の特徴は？

2024年も、2023年同様の懸念があります。感染者数は、全国的に9週連続で増加。オミクロン株の新たな変異株とされる『KP.3』が流行していて、このウイルスの特徴は「**感染力が高いこと**」です。

『大阪の新型コロナ患者数』についてのグラフを見ると、2024年7月8日～14日の1医療機関あたりの平均は9.65人と、感染拡大の入り口ともいわれるような数字となっています。グラフ上の青い線が2023年の患者数・赤い線が2024年の患者数なのですが、専門家は「2024年も2023年と同じように増加する傾向がある」と指摘。感染が広がっている今、感染者数の急増を防ぐことが重要だとされています。

■マスク着用がかえって熱中症のリスクに…症状が似ている新型コロナとの見分け方

また、**暑い夏は『熱中症』と『新型コロナ』の同時流行に要注意**です。初期症状がとも似ているのが問題となっていて、共通として『発熱』『頭痛』『倦怠感』が挙げられます。ただ、**新型コロナの場合は、『喉の痛み・咳・たん』『鼻水』『下痢』といった“熱中症にはみられない症状”に注目することが重要です。**

熱中症だったとしても重症化するリスクがあり、新型コロナに罹患している可能性も十分あるため、忽那教授は「水分補給や冷却をしても症状が良くならない場合は、医療機関へ相談を」と推奨しています。

暑い中でのマスク着用は『熱中症』のリスクに

ただ、暑い時期には、感染症対策が非常に難しい状況になっています。マスクの着用が推奨されていますが、街の人からは「マスクをすると息苦しく、蒸れる。暑い中では厳しい」という声が多く聞かれました。

暑い時期にマスクを着用していると、熱中症になるリスクもあります。**忽那教授によると、「交通機関など密集する場所ではマスクを着用するなど、判断することが重要だ」ということです。**

また、熱中症対策として『適切なエアコンの利用』が推奨されていますが、エアコンをつけて密閉した空間にいと、新型コロナの感染リスクが高まります。忽那教授は、「30分に一度は換気をすることが大切だ」と話していました。

■3割負担でも約1万5000円…5類移行で懸念される金銭的問題とリスク

街で話を聞くと、「コロナになっても、自己負担だから病院に行かない人が増えたのでは」という声も聞かれました。

新型コロナの治療薬は1～3割が自己負担となっていて、『ゾコーバ』は3割負担でも約1万5000円です。『東京都医師会』は2024年7月16日、「コロナの治療薬で早めの症状改善が大切。治療薬の自己負担を軽減してほしい」と声を挙げていました。

また、ワクチン接種についても、高齢者は一部自己負担で最大約7000円ですが、若い世代

夏のコロナ 全国で9週連続感染増
医療費の自己負担 11/14

コロナ治療薬
1～3割 自己負担
『ゾコーバ』
5日分 5万円超
→3割負担だと
約1万5000円

ワクチン接種
定期接種
・65歳以上
・60～64歳で重症化リスク
一部 自己負担
最大 約7000円

任意接種
全て 自己負担
約1万5000円

東京都医師会
コロナ治療薬で
早めの症状改善が大切
治療薬の
自己負担を軽減して

は全て自己負担となり、約1万5000円です。

患者の年代は若者が多い傾向 ただ、現在コロナ患者に一番多い年代は10代です。コロナなど感染症の特性で、若者から高齢者へ感染が広がっていきます。そのため、夏の帰省シーズンは特に注意が必要です。

在宅医療で治療する医師などに話を聞くと、最も危険なのが『新型コロナ』にかかると水分・食事が取れなくなり脱水症状を起こすことで、命のリスクが高まるということです。特に高齢者はこまめに水分を取っていないと脱水症状を起こしやすく、熱中症になる恐れもあります。「お水は取っている？」と周囲にいる方が声をかけたり、遠く離れて暮らしていても一言電話するだけでも全然違うということなので、いかに周りが高齢者のケアをしていけるかというところもカギになってきます。

The infographic features a purple starburst at the top left with the text '夏のコロナ 全国で9週連続感染増' (Summer COVID-19, 9 consecutive weeks of increasing infection nationwide) and '医療ひっ迫防くために' (To prevent medical strain). A red circle with a white slash over a pen icon is on the top right, with the text '感染予防をもう' (Prevention of infection again). The main text on the left reads '熱中症や手足口病などに加え コロナが増えると 医療ひっ迫の可能性' (In addition to heatstroke and hand-foot-mouth disease, etc., the possibility of medical strain as COVID-19 increases) and '基本的な感染症対策の徹底を!' (Thoroughness of basic infectious disease countermeasures!). Below this is a photo of Professor Kenji Inoue from Osaka University. On the right, there are two panels: '手洗い' (Handwashing) with 'せっけんで ウイルス減' (Reduce viruses with soap) and an illustration of hands being washed; and 'マスク・換気' (Mask and ventilation) with '人が多い屋内で' (In crowded indoor spaces) and an illustration of people wearing masks and raising their hands for ventilation.

医療逼迫の可能性も…基本的な感染症対策の徹底を

また、忽那教授は「熱中症や手足口病などに加えてコロナが増えると、医療逼迫の可能性はある」と指摘します。何度も言いますが、新型コロナは5類になっても“ただの風邪”ではありません。大切な家族が感染し、重症化するリスクもあります。『手洗い』『マスク着用』『人が多い屋内などでの換気の徹底』といった、基本的な感染症対策の徹底が重要です。（『読売テレビ』古瀬朱理記者・横須賀ゆきの解説委員）